

你好

中国語を学ぶ会
平成15年11月発行 第19号
連絡先 Tel 33-3177
神 山 Fax 32-5594

去る八月二十九日夜、中央公民館において役員会が開催されました。

中山会長はじめ各班の委員九名が出席し、会長挨拶に引き続き議事に入り熱心な討論が行われました。

今後の会の運営については今村会計担当委員から財政状態についての説明があり、なによりも健全財政を保つことが会の存続に不可欠であることを認識し、そのためには会員数の確保が必須であり、来年度の会員募集方法などについて話し合いました。

また、当会の特質として学校のように毎年進級し卒業するということが出来ないため、新会員を迎えた場合の現在の班の構成をどうするか等、頭の痛い問題もあります。

来春には班を移っていたりただかなければならないような事態が起きるかも知れませんが皆さんのご協力をお願いいたします。

会報「你好」への投稿が少なく、編集に困っている話題も出ました。各班に会報担当者をつけてはとの意見もありましたが、とにかくどんな内容でも、短い原稿でも結構ですから気軽に協力ください。

会長お手配の弁当（勿論各自負担で）を食べながら和気藹々と実りある会を開くことが出来ました。皆様もお気付きのことやご意見など各班の委員に遠慮なく申し出てください。より良い会にするために……

星期三班の額田さんからご自身で画いた絵をいただきました。昔（私の想像では多分昭和の10年代後半から20年代前半ころ）の農村風景を思い出して画いたものです。絵がお上手なことは勿論ですが、昔なつかしい風景が画かれていますのでご鑑賞ください。



内風呂なんか少なかった時代
夕立がくると番傘をさしておとう
ちゃんと汗を流す



のどかな農村風景、おかあちゃんは馬に
乗って野良仕事へ。水車が回ってる。

我是自由人

星期二班 飯田 豊

2年半前の3月勸奨退職により自由人となる。40年間勤めお上から太々とホームレスにならぬ程度の年金を貰う。毎日が日曜日となり時間をいかに有効、快適に過ごそうかと思案の中、習い始めた俳句に生きがいを求め、芭蕉を気取って徒歩は疲れるので車で自由人としての小さな旅にも出た。詠んだ稚拙な歌から当時を思い起こしてみると……

人恋し さくら月夜に 盃重ね
 退職後本当に寂しいのは友人関係が日々薄れてゆくことでした

大山の 川面に浮きて 朧月
 大山ケールブルー追分駅下「もと滝」の月、心洗われました

梅の香に 仮初の君 在る如し
 十九歳の彼女に「忘れな草をあなたに」を暗記させられフラれたな

焼き芋の かじりて白く 春が立つ
 旅先の壺焼きは大変美味かった、男性諸氏も便通のため食すべし

鯉のぼり 温もる縁に 老い集い
 道志川沿いを走って昔懐かしい風景に接し心が洗われました

紫陽花の 乱れ乱れて 艶と揺れ
 大きな頭が風に吹かれて揺れる様が芸者さんのようで良いですね

初夏や 湧水の嶺 耀ふて
 忍野八海の富士の湧水には何か心ときめくものがあります

砂日傘 波音まどろみ 風の中
 今年は冷夏で海岸で昼寝しても日焼けせず色白のまま

芭蕉路の 羽黒の句碑や 霧時雨
 福島に至る奥の細道は隅笹に覆われ霧に濡れ輝いて見えた

蝉の声 くる駅舎 日の落ちて
 北鎌倉駅で発車待ちの電車で届く蝉の声、幼き日に戻れました

词序颠倒的几种情况

李 昆明老师

在汉语词汇里绝大部分的词语、顺序是不能颠倒的，否则就不能成为词语。例如“情况”是一个词语，将它颠倒成“情况”就不是词语了。但是也有好多词语，将它们两个字顺序互相倒一下，仍然是一个词语。比如“金黄”是一个词语反过来“黄金”也是一个词语。

那么，词序颠倒后仍然是词语的，它们的意思会变吗？一般有一下几种情况：

- 一、词序颠倒后，意思基本一样。例如“讲演”和“演讲”，“积累”和“累积”，“代替”和“替代”，“整齐”和“齐整”等。
- 二、词序颠倒后，意思稍微有变化。例如“急救”和“救急”，前者是紧急救护，后者是指帮助解决突然发生的伤病或其他急难。
- 三、词序颠倒后，意思完全不同。例如“计算”和“算计”，前者是指一种数字上的运算，后者是指一种计谋。又比如“现实”和“实现”，“发挥”和“挥发”，“故事”和“事故”，“工人”和“人工”等，它们之间的意思都是完全不一样的。

所以，我们在表达时要做到准确使用词语，不能随便把词语的顺序颠倒，以免造成不必要的错误。

中国語の語彙の中でほとんどの語句はその語順をあべこべにはできない。さもないと語句とはならないからだ。例えば、情況をひっくり返して況情とすると語句として意味を成さない。だが、ひっくり返しても通用する語句もある。例えば、金黄を黄金としても……（意味の違いを調べてください）

では、逆にしても語句として通用するものは、その意味が変わるのだろうか。一般的には次のように言える。

1. ひっくり返しても基本的に変わらないもの（左欄を参照）
2. やや変化するもの（左欄を参照し辞書を引いて意味の違いを確認してください）
3. まったく意味が変わってしまうもの（上の2と同様に……）

だから、なにかを表現しようとするときには正確に語句を使わなければなりません。勝手に語句の順序をひっくり返したりすると要らざる間違いをもたらすことになりますよ。

だいぶ略した訳をつけてみましたが皆さん自分なりに辞書で調べてみてください。日本語の中にも同じように意味の変わるもの、変わらないものなど思い出してみたいかがですか。きっと頭の体操になるかも知れませんね。（編者）

本号も皆さまのおかげでどうにか発行することができました。初めて投稿をいただいた飯田さん、ご趣味が俳句とはうらやましいですね。旅行をしても景色や風物を見る目が違ってくることでしょう。そして自作の句を見るたびにその時の思い出が鮮明によみがえってくることと思います。小橋さんから初めて投稿をいただきました。中国語を始めるきっかけは人それぞれですが始めたからにはあきらめずに続けていきましょう。3年後5年後には進歩したなと実感できる日がきっとやってきます。機会があったらぜひ小橋さんのお琴の演奏を聞かせていただきたいものです。李老師の見方おもしろいですね。なにげなく使っている日本語の中からそのような例を探し出してみましよう。中山さんの連載旅行記も今回で完結です。たくさんの人からの投稿があってこそ「你好」の記事が面白くなるのだと思っています。短い文章でも結構ですから肩の力を抜いて気楽に投稿をお願いいたします。

家にはカメラが無いから写真屋に頼んでお正月の記念撮影



わーいわーい！
汽車が来たよ！
石炭の匂いが懐かしい



私の初めての中国旅行(2)

三峡クルーズ 星期四班 中山明弘

前号掲載の続編です。今回は豊都の鬼城観光のところで終わりましたが……

夜遅くなった夕食で船長主催のウェルカム・パーティが催され、船長、張継科がスピーチで“このクルーズは最後の三峡の元の姿のクルーズとなります。1997年から始まった国家的事業の三峡ダムの第二期工事完成に伴い 2009年全面完成を目指し貯水が開始されると水位が上がり重慶に至る長江の風景が変わります。今後また、もう一度異った三峡下りのクルーズに再度お出下さるよう。また船より見える兩岸の風景と共に住民の人々の姿、生活等も観て下さい。”若い船長(武漢出身)直立不動の姿勢で中国語の挨拶が心に残った。

翌朝、長江の日の出を撮ろうと5時にデッキに出て驚いた。前日の風景とは一変して兩岸を斧で切ったような峡の中を船は進み岸壁が聳り立つ山々を見上げつつ下る。山上から山腹にかけ雲が湧き、真に水墨画の中に迷い込んだようだ。寒い、川風は実に強い。防寒具の上にヤッケを着て出たのだが川を渡る風は強く肌を刺す。防寒服は必要だ。雲のため朝日は見えない。船内アナウスがあり、8時半ごろ三峡の一つ瞿塘峡の入り口に入るとのことで再度デッキに出る。未だ風は強く寒い。時々上りの船と行き合う。お互に手を振る。見ていて気付いたが壁岸に白いペンキで目盛りが書てあり、ダム完成時の上昇水位180米まで書いてあった。三峡の一つに入った。ガイドの王さん“みなさん三峡の入り口です。”“旧紙幣5元(五块)の裏面の絵画が三峡の風景です。”“左手の山の上を見て下さい、赤い屋根の建物が看えて来ます。白帝城です”“水位が上がると島となって白帝城の近くまで武漢から船で着けるようになります。”

説明を聞いて中にドンドン船は流れに乗って進みスケッチ・ブックを出してスケッチしている時間がない。ガイドの声

“棧道が見えて来ました左手の山の中腹をみてください。”“前方の左手の山上に人の形をした岩が見えて来ます。巫山です。”確かに人の姿に見える。また王さんの声“孔明碑が水が少ないので見えますよ!”岩石の一角の穴のような一面が水面上から上にみえるカメラを構えて写真を撮る。思い出した李白の詩「早に白帝城を発つ」を。
朝に辞す白帝彩雲の間、千里の江陵一日にして還る。兩岸の猿声啼いて住まざるに、輕舟已に過ぐ万重の山。

早发白帝城 (李白)

zhāocíbáidìcǎiyúnjiān
qiānlǐjiānglíngyírihuán
朝辞白帝彩云间 千里江陵一日还
liǎngānyuánshēngtíbúzhù
qīngzhōuyǐguòwànchóngshān
兩岸猿声啼不住 輕舟已過萬重山

三峡の観光のため遅い中食を取り、全員救命具を付けて神農溪へ行くため下船し小型船で支流口に、そこで10人程に分散し輕舟に乗替え、いよいよ猿も住む自然の美し樹木と激流の溪谷へ。少数民族の巴東纤夫6~7名が一組となり竿と綱で小舟をあやつり引張って上流に引き上げて行く。流水は清く冷めたい。その中に入って綱を引く。以前は裸で男達は水の中に入って引いていたと言うが現在はパンツを着いて頭が舟の頭と尾に1名ずつ立って竿で操り残りの5~6人は綱で引く。兩岸が迫り立つ、見上げる岸壁に埋葬された棺桶が見られた。そこから一気に流れに乗って溪谷を下る。巴族の男・女それぞれ唄を歌ってくれた。いい声だ。谷にこだまして響く。猿声も聞える風景、詩だ。翌日旅5日目、茅坪からバスで三峡ダムを見学し荊州へ

「思ひ出」

星期二班 小橋 和江

您好、まさか出だしに、この言葉を使って文を書くとは思ってもりませんでした。投稿することを割り当てられ何十年振りか書いています。

特に、内容は問わないと言われましたのでとりとめもなく書きまします。中国語を学ぼうとした理由は、下の娘が大学で中国語を第二外国語として取り、たまたまこちらの募集が有り入会しました。最初は戸惑いました。多くの人と話すことです。以前から習っているお筆は何時先生と私の一対一のお稽古です。

でも、火曜クラスの人は、すぐ話しやすく直ぐに慣れました。勿論李老師の人柄によるところが大きいと感じます。お筆も二十年以上ですが、ここ最近です楽しいと思うのは、中国語も気長にやるしかないと思っています。ただし、先(?)が限られてきたと感じる今日此の頃です。

中国では結婚も自由化

何事にも規制緩和が叫ばれている昨今、中国でも結婚の手続きが簡素化されたようだ。

中国には「婚姻登記管理条例」という法律があり、結婚の際には様々な煩瑣な手続きが必要とされてきた。

例えば、職場や居民委員会が出す紹介状や健康診断書、戸籍簿、身分証、独身証明書、非近親証明書などなど……

中国は社会主義国家として単位と呼ばれる職場組織や居民委員会が人々を様々に管理してきた。職場などで結婚に必要な証明書をもらう場合、上司の同意が必要だったり、プライバシーの侵害や上層部の権力誇示に結びついたりなどの弊害もあった。

健康診断の検査項目を勝手に増やして高い料金を取る悪徳医師がいたり、当局が病気の有無を理由に結婚を許可しなかったりすることも問題とされてきた。

一方市場経済の導入により個人経営者や出稼ぎなど単位に属さない人たちが増え、従来の管理方式が通用しなくなりつつもあった。

新条例によると、婚姻手続きに必要なものは戸籍簿と身分証のみとなり、

これを持って二人が登記機関に出向き、配偶者が無く、相手が近親関係にないことの証明書に署名すればこれでOKとなる。新条例の施行により中国でも結婚が二人の愛情と自由意志に基づく個人の権利として認められ、今後政府や勤務先などの組織が個人の結婚に干渉することがなくなることになる。

さてさて、日本の法律ではどうなっているのかご存知かな?

民法第四編、親族の第二章第一節第一款によれば婚姻の要件として、男は満18歳、女は満16歳にならなければ(未成年者は父母の同意が必要)婚姻することができないとか、重婚禁止、近親婚の禁止、直系姻族間の婚姻禁止などいくつかの条件が記載されている。

同法第739条には婚姻の方式として、戸籍法の定めるところによりこれを届け出ることによってその効力を生ずる。この届出は当事者双方及び成人の証人二人以上から、口頭又は署名した書面で行なければならない、となっている。

大半の諸兄姉にとっては、はるか昔に経験したことであり、今後再び経験することも無いだろうから関心が薄い問題だと思われるが、改めて読んで見ると結婚の届出は口頭でも出来るのだとびっくりした次第である。

早朝（旅行五日目）汽笛の音で目を覚ます。朝食後荷物は棒棒屋（天秤で担いで運ぶ）さんがバスまで運ぶとのことで荷札（ステッカー）を付けてロビーに集合、長江公主号の乗務員のみなさんに送られ、そのまま歩いてバスへ。降雨中新三峡ダムの建設現場へ見学に出発。現地ガイドの謝さんが三峡ダムの説明を始める。“この茅坪（^{máopíng}）は三峡ダム工事により出来た町で完成と共に水没しますので、この上の山上に新しい街が出来てます。この三峡ダムは国家プロジェクトで一番大変なのは、113万人の移住でした。ほぼ終わりました。ダム観光の街として発展して行く予定です。”挨拶としての一声である。なる程港の周りには空家ばかり、バスが山を登り高台に出ると新しい高層マンションが建ち並んで居る。新市街が道も人家も無い所に誕生し、ホテルやレストランも造られていると言う。

今年一月頃、NHKテレビで三峡ダムを取材し「110万人の大移動」とスペシャル番組で放映していたのを見て知っていたが、目の前に現実の姿を見て驚く。

ガイドの謝さん、運転席のフロントガラスに掲示してある許可書を指差し、“この許可書がないと建設現場に入れません”なる程、三峡ダム入り口に兵士2名が、警備に当たり通行人、車両すべてを検閲していた。

展望台に向かう。途中橋を渡った右側に今迄使っていたパナマ式船舶用運河が空堀のように幅広い溝となってるが見えた。思たより狭い感じだ。これで船が通れたのかなァー。

展望台広場に出た。公園のように広い。資料展示室とお土産売り場を合わせた平屋の建物、それに警備員事務兼詰所。郵便局出張所、あとは記念碑と展望台。

雨が上がったので展望台に登ったが深い霧で、なんにも見えない。五里霧中だ。辛うじて霧の切れ目から新しい船舶

運河の工事現場が見られた。五段式ロックゲートで一万トン級の大型船が通行可能となる。

小型船は数隻、エレベーター式に一気に上下し通す計画とのこと。

上流に向けて本を開いた型の記念碑があり、その横に大きな記念彫刻塔。中央に青銅で「男性三体が巴の形で激流の中で斗っている」リリーフがあり、右側に赤い石材で「長江流域の大自然の中で動物と共に暮らす人々」、左側に同じ石材で「工場で生産する人人」がリリーフとして飾られていた。

興味を引いたのは、このリリーフ塔の前に大きな奇石（名園の庭石のような）だ。ダム工事中、五千年前の地層から発見されたもので展示してあった。

資料展示室のダム模型で説明を受ける、しかし三峡ダムのパンフレッドが作成されてなく、又郵便局出張所で切手を買おうとしたが切手の保管が悪く買う気が起らない。

セールスする気や、P. R.（周知・宣伝）する気は更に感じられない。これで観光地で町づくりをするとのガイドの話に疑問を禁じえない。

展示係員とガイドの謝さんの説明と自分で調べた処を纏めると次のようである。

「河川を治するもの天下を制する」と言われるように、この三峡ダムは国家の威信をかけた大事業で「水上の長城」とも言われている。最初に提唱したのは、国父と呼ばれる孫文で、1919年「建国方略」にこの構想を打ち上げ。53年毛沢東主席が長江視察し、洪水対策としてダム建設を口にした。

56年に林一山（長江流域計画弁公室主任）が、①洪水対策、②上流の大型船舶通行、③発電、三点を目標にダム建設すべきと主張。80年代に入り鄧小平の改革開放政策が進み再び、三峡ダム論争が活発。91年淮河、太湖の洪水もあり、1992年の全国人民代表大会で建設が正式に決まった。

自然環境破壊する恐れありとのことで「ノーダム主義者」が反対したが政府は最小限に抑えられるとして、1994年巨大プロジェクト「三峡ダム」として工事を着工。

一番の問題であった地域住民113万人（公式発表数）の大移動を「移民局」が口号、“舍（捨）小家為国家”（国のため自分家を捨てる）。で思想工作を行いやっと“113万人の大移動”を成し遂げた。現在一部発電も始まっており既に上海などに送電している。

私の観たところでは、このダムは巨大であり魚道も造られておらず、土砂崩れ、土砂ゴミ滞留等々取組むべき問題は多い。但し外国人技術者（多くは独国より）の下で1万5千人の中国人達で立派に第二期工事を完成したのであるから必ずや、これら諸問題をも乗り越えるものと信じる。

さて、ダム工事見学を終わり宜昌からバスで宿泊地荊州へ。三国志の「関羽」の古城の見学を楽しみに。三峡ダムについてのデータは別紙の通りです。

三峡ダム

場 所	河北省宜昌市三斗坪
工 事	1994年建設開始。第二期02年完。2009年完成予定。現在第三期中。
ダム 堤	高さ 181米。 幅 2309米
総貯水量	393億立方米（日本全体の約2倍）
洪水防水	100年に一度減の計算
効 果	（10年に一度、長江の中下流域で大規模な洪水発生） 洞庭湖周辺及び江漢平原など1,500万人が住む広大な地域が洪水を免れる。
発 電 量	完成時能力 1820万KW 年間量 847億KW
建 設	220億ドル（約兆6,400億円）
資 金	国家負担 40% 銀行借入 40% ダム収入 20%
水 没	ダム完成により水位が175米上昇。流域住民113万人の移住要。有名景勝スポット13%が水没。豊都（鬼城）、張飛廟、屈原、昭君の故里等は水没。

囲炉裏を囲み一家そろっての夕ご飯



小学校でのお弁当の時間、先生がヤカンからお茶をついでくれます



湯タンポ

冬が近づくと懐かしく思い出されるのが「湯タンポ」だ。今では骨董店か民芸店などでしか見かけられなくなってしまったので若い人は知らない人も多いだろう。

ご存知の方にとっては馬鹿馬鹿しいことだろうが一応説明してみよう。ブリキや陶製の平べったい楕円形の容器に熱湯を入れ、タオルなどにくるんで布団の中に入れ、睡眠中の足を暖める暖房器具なのである。

今ではエアコンや電気毛布のお陰で冷え性の人でも安眠をむさぼることができるようになったが、半世紀前までの日本では冬の必需品だった。

ところで「湯タンポ」とカタカナで表現するからには外来語に違いないと思うのが自然だろう。それでは「タンポ？」とはなに語だと思いませんか。「你好」の

記事だから中国語では？と半信半疑の人もいるかも知れないが正真正銘の中国語なのである。つまり湯タンポを中国語で「湯婆子」tāngpózi と言うのである。婆子は年配の女性を意味するので中国でも冷え性は女性の専売特許だったのかもしれない。

さて、いつの時代に湯タンポが中国から伝来したのかは定かでないが、伝来当時には多分「タンポー」と呼んでいたと思われる。しかし「タンポー」では実態にそぐわない。そこでお湯を入れるのだから頭に湯を加えたほうがわかり易いという訳で「湯タンポ」が定着したようだ。

ほかにも中国語から転訛した日本語があると思われるが、お気づきの同学は次号に是非投稿していただきたい。お待ちしておりますゾー。

柏の木

中国を旅行すると永い歴史を持つ古い寺廟などを参観する機会が多い。そしてその境内に樹齢千年を越える老木が大切に守られていることも珍しくない。

私も昨年秋、山西省の太原市郊外の晋祠というお寺を訪れた。晋祠は北魏時代（西暦500年頃）の創建と言われるから既に1500年の歴史を有している。

その境内に「長齡柏」と紹介されている柏の古木があった。柵に囲まれて保護されているその柏の老木には樹齢三千多年との説明文が掲出されており、幹の太さと言ひ、木の高さと言ひさすが三千年の星霜を生き抜いた貫禄がにじみ出ている。

だが待てよ！柏の木にしては葉っぱの形状がまったく違うではないか。柏と言え日本なら誰しも「柏餅」を包んだあの大きな葉っぱを連想することだろう。しかしこの老木の葉はどう見ても

針葉樹だ。

帰ってから調べてみた。中国の柏はヒノキ科の常緑樹で「コノテガシワ」と呼ばれる種類で日本の柏とは異なることが判った。古くは松とともに「松柏」と呼ばれて、ともに常緑樹であることから人の節操の固いことを象徴した。またいつまでも残るようにと願って、墓の上には松柏を植える習わしがあったと言われている。

因みに日本の柏はブナ科の落葉樹で4～5月ごろに新葉が出てくる。だから五月の節句ごろに食べる柏餅は新葉を使っているのだから香りがあっておいしいのだ。季節外れの柏餅は保存葉を使うのでどうしても一味落ちるような気がする。柏餅を食べるなら春に限る！

中国で柏の木に出会ったらこの話を思い出して同行の仲間に説明してやってはいかがですか。